

研究科の教育研究上の目的及び基本方針

建築学専攻 博士前期課程

教育研究上の目的

様々な機能と諸技術、そして美とを調整し、それらの最善の総合化を図ることによって、人間の多様な営みにとって使いやすく、安全で快適、かつ感動を呼ぶ持続可能な空間や形態・環境を創造し、先端的知識を要求される建築の諸分野の問題に、積極的に立ち向かえる専門的技術者を養成することを目的とする。

多様な興味や関心で育まれる広い知識や教養とともに新しい諸技術を総合化していく能力と、自らの力を発揮し、社会で自らの役割を担うためのコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

本専攻博士前期課程において所定の単位を修得し、修士論文又は特定の課題の審査及び最終試験に合格した者には、以下に掲げる能力等を身に付けていると判断し、修士(建築学)の学位を授与する。

- ・自然現象の深い理解から社会課題の解決までを一貫して捉えられる視座と、技術者又は研究者としての高い倫理観を身に付けている。
- ・多様化する社会に関する幅広い視野と教養を身に付けている。
- ・専門に関する英語の文献等を理解し、かつ、その内容について高度な専門知識に裏付けられた論理的な説明や議論を行うことができる能力を身に付けている。
- ・建築分野の急速な技術進歩へ適応できる能力を身に付けている。
- ・建築分野の産業的観点及び学術的観点から重要とされる課題を解決できる研究推進能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本専攻博士前期課程は、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、多様な興味や関心で育まれる広い知識や教養とともに新しい諸技術を総合化していく能力及び、自らの力を発揮し、社会で自らの役割を担うためのコミュニケーション能力を習得させるために、次に掲げる方針で教育課程を編成している。

(教育課程の編成方針)

- ・理学における自然の本質探究及び工学における知の社会実装の両視点を融合した科目や、境界領域又は関連領域の連携による科目を配置する。
- ・技術者又は専門家としての倫理や社会的責任を理解するための科目を配置する。
- ・国際的感性及びコミュニケーション能力の涵養を図るために、科学技術に関する英語科目を配置する。
- ・指導教員の下、産業的観点及び学術的観点から重要な研究課題に取り組むことで、積極的に社会と関わり、様々な機能と諸技術、そして美とを調整し、それらの最善の総合化を図ることができる能力を育成するための科目を配置する。
- ・建築構造、建築デザイン、建築環境に関する専門分野の中から、各自の専門及び専門以外の関連分野に関する高度の知識を身に付けるための科目を配置する。

(教育の方法と評価)

- ・指導教員だけでなく、アドバイザー(副指導教員)を含む複数指導制度を設ける。
- ・国内外の学会発表において研究成果を発表することで、学外の社会と関わりながら研究をまとめる能力

を涵養する。

- ・TA(ティーチング・アシスタント)として、教育能力を高める経験を積む機会を用意する。
- ・単位制度の実質化を図るため、成績評価を厳格化するとともに、成績評価の方法及び基準(修士論文基準を含む)を明確化し、それを公表する。
- ・中間審査において、研究の進捗を評価する。
- ・修士論文と、その内容に関する口頭発表を審査することで、修士として必要な能力を身に付けているかを評価する。

アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

本専攻博士前期課程は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次に掲げる方針で入学者を受け入れる。

- ・建築計画、建築環境・建築設備、建築法規、建築構造、建築施工の各分野における十分な基礎学力を有する人
- ・英語で書かれた専門分野の教科書が理解できる程度の英語能力(日本語を母語としない場合は日本語能力を含む)のある人
- ・様々な機能と諸技術、そして美とを調整し、それらの最善の総合化を図ることのできる人
- ・人間の多様な営みにおいて使いやすく、安全かつ快適で、感動を呼ぶ持続可能な空間や形態及び環境を創造することのできる人
- ・研究成果を学会に発表したり、設計競技に応募したり、他者と力を合わせてまちづくりに参加したりするなど、積極的に社会と関わり合いを持つ意欲のある人
- ・一級建築士、構造設計一級建築士、設備設計一級建築士、一級施工管理技師、技術士等の資格修得を目指す人

建築学専攻 博士後期課程

教育研究上の目的

様々な機能と諸技術、そして美とを調整し、それらの最善の総合化を図ることによって、人間の多様な営みにとって使いやすく、安全で快適、かつ感動を呼ぶ持続可能な空間や形態・環境を創造することを高度に達成し、先端的知識と技術を要求される建築の諸分野で、率先して新しい建築分野を切り開くことのできる高度な研究者及び専門技術者を養成することを目的とする。

建築分野の専門知識と新しい諸技術を総合化し応用していく能力や広く社会と関わるための高度なコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけさせることを目的とする。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

本専攻博士後期課程において所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者には、以下に掲げる能力等を身に付けていると判断し、博士(建築学)の学位を授与する。

- ・多様化する社会に関する幅広い視野と教養を身に付けている。
- ・研究の成果を日本語や英語で発表し、論文としてまとめる能力を身に付けている。
- ・論理的な思考力とプレゼンテーション能力を身に付けている。
- ・建築分野の急速な技術進歩へ適応できる高い能力を身に付けている。
- ・建築分野の産業的及び学術的観点から重要とされる課題を見出す、これを解決できる高い研究推進能

力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本専攻博士後期課程は、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、建築分野の専門知識と、新しい諸技術を総合化し応用していく能力、また高度なコミュニケーション及びプレゼンテーション能力を習得させるために、次に掲げる方針で教育課程を編成している。

(教育課程の編成方針)

- ・自主性を大切にしつつ、教員の助言の下で、様々な機能と諸技術、そして美とを調整し、それらの最善の総合化を図ることができるよう、社会との結びつきを重視しながら研鑽を積むことのできる科目を配置する。
- ・建築構造、建築デザイン、建築環境に関する専門分野の中から、各自の専門に関する高度な最先端の学術的知識を身に付けるための科目を配置する。

(教育の方法と評価)

- ・教員の指導の下に、学部学生や博士前期課程学生を率いて高度な研究課題を解決する能力やグループを統率する能力を涵養し、専門的な研究開発能力を育成する。
- ・指導教員だけでなく、アドバイザー(副指導教員)を含む複数指導制度を設ける。
- ・国内外の学会発表において研究成果を発表することで、学外の社会と関わりながら、他の研究者と討議する能力や国際的コミュニケーション能力を涵養する。
- ・英語で学術論文を作成することで、研究の成果を日本語だけでなく英語でまとめる能力を涵養する。
- ・TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育能力を高める経験を積む機会を用意する。
- ・単位制度の実質化を図るため、成績評価を厳格化するとともに成績評価の方法及び基準(博士論文基準を含む)を明確化し、公表する。
- ・予備審査において、研究の進捗を評価する。
- ・博士論文と、その内容に関する口頭発表を審査することで、博士として必要な能力を身に付けているか評価する。

アドミッション・ポリシー(入学受入の方針)

本専攻博士後期課程は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次に掲げる方針で入学受入を行う。

- ・建築計画、建築環境・建築設備、建築法規、建築構造、建築施工の各分野における高度な学力を有する人
- ・英語で書かれた専門分野の学術論文を読むことができる英語読解力(日本語を母語としない場合は日本語能力を含む)を有し、論文を執筆できる英語作文力を修得する意欲のある人
- ・自ら新たな問題を発掘し、それを解決する意欲を持つ人
- ・研究者並びに高度専門技術者として建築の各専門分野で活躍することを目指す人